



前回の特集「まちづくりと交通」に対して、市民158人から300件の意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) 市が考えている公共交通ネットワークについてどう思いますか？

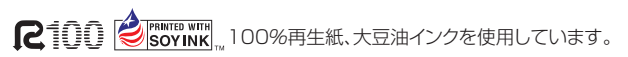
- 温暖化が進んでいる現在、ぜひ、進めてほしいと思う。また車の免許を持っていない人の楽しみも考えて欲しい。(宝木本町 60代)
- バス路線を維持しつつ、運転範囲を拡大し、運転回数を増やしてほしい。また、LRTは現在より交通渋滞を招くと思う。宇都宮は何といても自動車を中心。緩和のために役立たない。(泉が丘7丁目 70代)
- 宇都宮で東京ほどの交通ネットワークが必要とは思わないが、JRと東武鉄道だけでは、マイカー通勤が増えるのは仕方がない。確かにバスはあるが交通渋滞などにより時間が不正確である。(40代)
- 既存の公共交通機関を効果的に活用することが第一と考える。鉄道についてはバスや自転車との共生、バスについては需要に見合った路線やダイヤの再考が重要と思う。(豊郷台2丁目 40代)
- 中心街の周りばかりでなく、町外れにも循環バスを走らせてはと思う。私は下乗ですが路線バスなので、年老いてくると乗る気になれなくて町の中に出ていくのも控えてしまう。(下栗町 60代)

(2) どうすれば、公共交通の利用者が増えると思いますか？

- 最寄駅・金融機関・スーパーマーケット・医療機関・量販店・市民センターなどを循環する地域内交通があればよいと思う。(幕田町 70代)
- 宇都宮はまちの中心を魅力ある所にしなければならない。また、小型バスを郊外でも網の目のように通して欲しい。(宝木本町 60代)
- バス・LRT・鉄道いずれも早く安く移動ができるものでなければならない。本数を増やしてどこに行くにも無駄な待ち時間なく、スムーズに乗り継げること。早朝や深夜も動いていることは最低限必要。(雀の宮1丁目 30代)
- 住宅団地などを小型バスで巡回する地域を増やし、かつ、本数を増やし幹線につなげば車から公共交通への切り替えの足がかりとなるのでは。(富士見が丘1丁目 60代)
- まず福祉タクシーや宮バスを全市内に運行して、料金も200～300円以内にしてマイカー利用より経済的であることと運行回数を増す。(上野町 60代)

広報うつのみや特集号は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回発行します。また、毎月1日発行の通常号の次回(3月号)は、3月1日配布です。

広報うつのみや 特集号はホームページでも見られます。
<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>



前回の特集「まちづくりと交通」の概要



クルマと共存する、公共交通を中心としたまち

クルマは便利な乗り物であるが、過度なクルマへの依存は、交通渋滞や交通事故の増加、中心市街地の空洞化、環境問題など、さまざまな課題の一因にもなっている。市では、「クルマ中心のまち」から「クルマと共存する、公共交通を中心としたまち」への転換が必要であるとし、鉄道・バス・タクシー・LRTの各種公共交通と、クルマや自転車を連携させた「公共交通ネットワーク」の整備を検討している。また、既存のバス路線の維持存続や地域に応じた交通(地域内交通)を導入し、市民の移動手段の確保を図る「生活交通確保プラン」を策定した。

市民・交通事業者・行政の連携が重要

公共交通ネットワークの整備がもたらす効果は、「高齢社会への対応」「環境問題への対応」「まちの活性化」「過度なクルマ利用による各種交通問題への対応」と多岐にわたっている。そのため国ではネットワークの基幹となる公共交通として、今後10年間で10都市にLRTを導入するといった考え方を打ち出すとともに、整備に対する補助制度を拡充しつつある。公共交通を中心としたまちづくりを進めるためには、市民・交通事業者・行政の三者の連携が重要であるため、今後も交通事業者などの関係者と協議を行いつつ、また、あらゆる機会をとらえ情報提供を行いながら、意見交換会などを実施し、幅広く市民の皆さんのご意見を伺っていききたい。



料金受取人払

郵便はがき



差出有効期間
平成19年8月
11日まで
【切手不要】

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号
(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課 行



3 2 0 8 7 4 0 3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。